

色を使った、高齢者イメージの測定の試み

小林 尚 司¹⁾・荻 野 朋 子²⁾・伊 藤 孝 治³⁾・園 井 葉 子¹⁾
 安 藤 夢 子⁴⁾・武 藤 よしみ⁵⁾・大 平 政 子²⁾

Using Color to Investigate the Image of Elderly

KOBAYASHI Naoji¹⁾, OGINO Tomoko²⁾, ITO Kouji³⁾, SONOI Youko¹⁾
 ANDO Yumeko⁴⁾, MUTO Yoshimi⁵⁾ and OHIRA Masako²⁾

キーワード：色、高齢者、イメージ

Keywords: Color, elderly, image

【はじめに】

老年看護教育の研究領域では高齢者イメージに関する研究がしばしば試みられており、イメージの測定には言葉を使ったSD法を用いたものが多い¹⁻⁵⁾。それらの研究では、用いられている形容詞の種類や数、あるいは尺度目盛りは研究者によって様々であり、得られた調査結果も多種多様である。

SD法のデータはコンセプト、尺度、被験者の3者から構成されており⁶⁾、尺度の統制が十分になされなければ、そこから得られる結果について比較検討することは困難である。このため、これまでの言葉を使ったSD法による高齢者イメージの測定方法では、具体的な高齢者イメージに関する一定の見解が得られない状況にある。

複数の研究で得られた結果を比較検討するためには、高齢者イメージを探る調査尺度の統制が必要となる。この尺度の統制という視点から筆者らは、松岡が開発したカラー・シンボリズム・テスト⁷⁾（以下C.S.T.とする）の色彩表に着目した。色の意味が明らかにされたC.S.T.

の色彩表を用いて、高齢者イメージをとらえようと考えた。色彩表を用いることにより、尺度が統制されて結果を一定の形で導き出すことができ、研究者の興味や意図などの諸要因が調査結果に与える影響を回避できる。また、色は言葉よりはっきりと感性的な意味特性を持つ特徴も有している。

今までに、色彩表を用いた高齢者イメージの調査報告は見あたらない。本方法の可能性を探るため、高齢者イメージの調査を実施した。

【方 法】

1. 対象及び調査時期

本調査の趣旨を理解し了解を得られた、N市内の2校の看護短期大学2年生155名（A校56名、B校99名）に対し、老年看護学講義を終了し老年看護学実習の前の時点である、平成11年12月に調査を実施した。

2. 調査方法

自記式質問紙を用い、「高齢者」という言葉に対してイ

1) 日本赤十字愛知短期大学（老年看護学）、2) 名古屋市立大学看護学部（老年看護学）、3) 愛知県立看護大学（老人看護学）、4) 公立春日井小牧看護専門学校（老人看護学）、5) 愛知県立総合看護専門学校（老人看護学）

1) Japanese Red Cross Aichi Junior College of Nursing (Gerontological Nursing), 2) Nagoya City University School of Nursing (Gerontological Nursing), 3) Aichi Prefectural College of Nursing & Health (Gerontological Nursing), 4) Public Kasugai-Komaki Nursing College (Gerontological Nursing), 5) Aichi Prefectural School of General Nursing (Gerontological Nursing)

色を使った、高齢者イメージの測定の試み

表1 色の感性的意味特性と因子型⁷⁾

色彩	男 子				女 子			
	評価性	活動性	力量性	因子型	評価性	活動性	力量性	因子型
1 白	+	—	—	活動型	++	—	—	評価型
2 ピンク			—	力量型			—	力量型
3 黒	—	—	++	力量型		—	++	力量型
4 灰	—	—	—	活動型		—		活動型
5 青	++	—		評価型	++	—		活動型
6 暗褐色				評価型				力量型
7 赤紫	—			評価型	—			評価型
8 紫				力量型	—		+	力量型
9 赤		++	++	活動型		++	++	活動型
10 青緑	++	—	—	評価型	+	—	—	力量型
11 橙	+	++	+	活動型	++	++		活動型
12 黄緑	++	—	—	評価型	++	—	—	評価型
13 青紫		—	+	力量型		—	++	活動型
14 黄	+	++	—	活動型	+	++	—	活動型
15 赤紫濁	—		++	評価型	—		++	力量型
16 緑	+	—		評価型	+			力量型

メージする色とその理由、高齢者と思う年齢、高齢者に対する印象点について尋ねた。イメージする色は、C.S.T.の色彩表で最もそう思うものから上位3色を選択させ、色を表す言葉からの影響を少なくするため色彩表の番号で回答を求めた。理由は、第1位に選択した色について、なぜその色をイメージしたのか自由記載してもらった。高齢者に対する印象点は、嫌いを1点、好きを10点として、その点数を求めた。

3. 分析方法

学生が選択した色を集計し、「評価型」、「活動型」、「力量型」の因子型に分類し、各色が持つ3因子それぞれの意味特性を、最もネガティブを-2、最もポジティブを+2として点数化して因子ごとの平均値を求めた。これらの分類と因子ごとの意味特性については、松岡の調査結果を参考にした。(表1)

【結 果】

調査対象者の平均年齢は20.03±0.95歳で、全員が女性であった。高齢者と感じる年齢は、55歳から80歳の広範囲に分布し、平均67.2±4.8歳であった。高齢者に対する印象点は、1点から10点に分布し、平均6.068±1.877点であった。

高齢者のイメージ色として、第1位に挙げられた色は13色であった。このうち最も多数が選んだ色は赤紫濁の44名(28.4%)、次いで暗褐色と灰色がそれぞれ40名

表2 色を選択した理由

服装	80名
髪の色	12名
暗い	12名
落ち着いている	10名
あたたかい	4名
やわらかい	3名
どんよりした	3名
やさしい	2名
バイタリティ	2名
しぶい	2名
その他	7名

*複数回答有り

(25.8%)で、これら上位3色を選択した者が80.0%を占めた。また全く選ばれなかった色は、黒、黄緑、黄であった。また、第2位・第3位に選択された色の上位3色も、第1位に選択された色と同じ3色が選ばれていた。色を選択した理由は、服装や髪の色などが多く挙げられた。(表2)

第1位に選択された13色すべてを表1に沿って因子型に分類すると、「力量型」59.4%、「活動型」34.2%、「評価型」6.5%であった。

第1位に選択された13色すべてを表1に沿って因子ごとの意味特性を点数化し平均を求めた結果は、「評価性」-0.16、「活動性」-0.89、「力量性」0.56であった。(表

表3 意味特性の平均

	評価性	活動性	力量性
A校 (n=56)	-0.25	-0.95	0.55
B校 (n=99)	-0.12	-0.86	0.57
全体 (n=155)	-0.16	-0.89	0.56

3) A校とB校で、選択された色や因子型の割合と因子ごとの意味特性は類似していた。

印象点6点以上の高得点群と5点以下の低得点群で、選択された色や因子型の割合に有意な差はなかった。

高齢者と思う年齢が後期高齢者の75歳以上の群と前期高齢者の75歳未満の群で、選択された色や因子型の割合に有意な差はなかった。

【考 察】

今回の高齢者イメージ調査では、C.S.T.の色彩表を用いることで測定する尺度が一定となり、結果を因子型と各因子の意味特性で一定の形に導き出すことができると考える。

C.S.T.の色彩表の16色は、松岡⁷⁾によって、「評価性」、「力量性」、「活動性」の3つの因子でその意味特性がほぼ明らかにされ、さらにその中のどの因子からとらえられやすい特性を持っているかによって「評価型」、「力量型」、「活動型」に分類されている。3つの因子の意味するものは、「評価性」は、快-不快・受け入れ-拒否などの観点から見た意味の側面である。「力量性」は、たくましい-弱々しい・ずっしりとしている-軽いなどの観点から見た側面である。「活動性」は、スピーディー-鈍重・喧噪-静かななどの観点から見た側面である。この意味特性や因子型は、年齢や性別により異なる一面も有している。

今回の調査では、第1位に選択された色と、第2位・第3位に選択された上位3色は同じであったため、第1位に選択された色のみを分析対象としても問題ないと考えられる。

第1位に選ばれた13色を因子型に分類した結果から、学生は高齢者のイメージを「力量性」の因子でとらえ、高齢者のイメージをたくましい-弱々しい、ずっしりとしている-軽いといったような観点でとらえている可能性が示唆される。

第1位に選択された13色の意味特性を検討してみると、「評価性」や「活動性」の持つ意味特性は共にネガティブなもので、「力量性」についての意味特性はポジティブな傾向を示している。さらにこれら意味特性の強さについては、「活動性」ネガティブ、「力量性」ポジティブ、「評価性」ネガティブの順で出ていた。

学生は高齢者に対して、動きが鈍い、ずっしり落ち着いているといったイメージを持っており、快-不快・受

け入れ-拒否などの視点はあまりないことが推察された。

色を選択した理由は、服装や髪の色など高齢者の外見が多く書かれていた。学生の高齢者イメージは、外見によって強く影響されると考えられた。

今回のC.S.T.色彩表を用いた高齢者イメージの測定方法が、異なる2校ではほぼ同様の結果を得ることができた。このことから、調査対象者の高齢者イメージの傾向をとらえていると考える。しかし、この結果のみで今回のC.S.T.色彩表を利用した方法の効果や特性などについて判断できず、他的高齢者イメージの調査と比較検討することが必要である。これまでの言葉を使ったSD法を用いた研究では、析出された因子が研究により多様¹⁸⁾であり、今回の結果と比較検討は困難である。

今後、色を使用した本方法を検討するには、まず色による方法と言葉によるSD法の両方を、同一のコンセプトと対象で実施してみる必要があると考えられた。

【謝 辞】

本調査にご協力いただいた学生の皆様に感謝いたします。
(本調査は、平成12年11月に第5回日本老年看護学会学術集会において発表した)

【文 献】

- 1) 大谷英子, 松本光子: 老人イメージと形成要因に関する調査研究 (1) 大学生の老人イメージと生活経験の関連, 日本看護研究学会雑誌, 18 (4), 25-38, 1995.
- 2) 大塚邦子, 正野逸子, 日浦瑞枝他: 看護学生の老人イメージに関する研究-SD法によるイメージ評価と描画特徴とを中心に-, 老年看護学, 4 (1), 98-104, 1999.
- 3) 多田敏子: 老人看護学における臨地実習による看護学生の高齢者に対する印象の変化, 老年看護学, 1 (1), 63-70, 1996.
- 4) 片山信子, 出宮一徳: 老人看護学教育の検討-看護学生の持つ老人イメージと教育のかかわり-, 岡山県立短期大学紀要, 33 (2), 165-173, 1990.
- 5) 寺島喜代子, 吉村洋子: 看護学生の老人イメージについて-老人イメージスケールを用いて-, 福井県立大学看護短期大学部論集, 8, 29-38, 1998.
- 6) 岩下豊彦: SD法によるイメージの測定 その理解と実施の手引き, 2-42, 川島書店, 東京, 1983.
- 7) 松岡武: 色彩とパーソナリティー, 115-142, 金子書房, 東京, 1995.
- 8) 保坂久美子, 袖井孝子: 大学生の老人イメージ-SD法による分析-, 社会老年学, 27, 22-33, 1988.

(平成12年11月29日受稿)

(平成13年1月16日受理)